

# いごいのみぎわ

## 天路歷程 ジョン・パニヤン

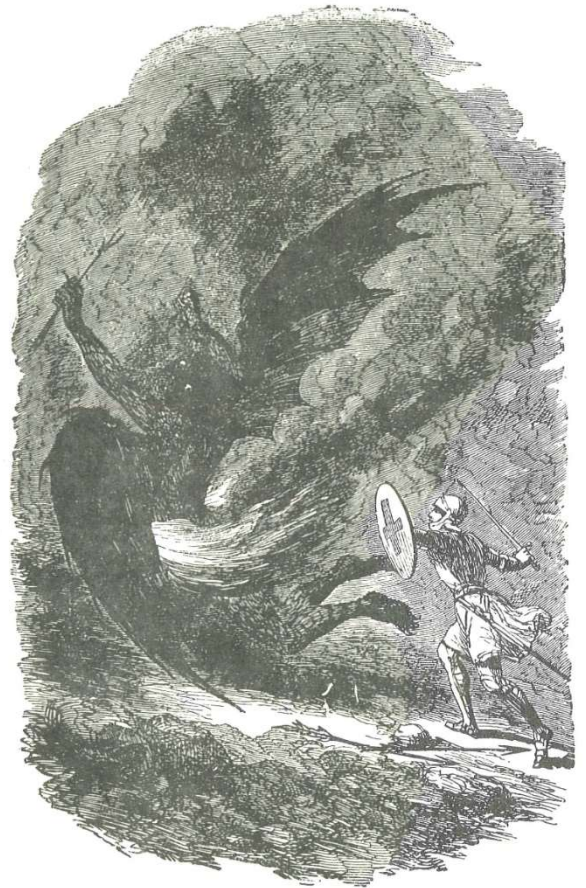
### 第20話

2022年4月3日～4月9日 各家庭でのディボーション用テキスト

**基督者** アポルオン、自分のやることに気をつけろ、わが立つところは王の大路であり、聖なる道である。**【民 21:22、イザ 35:8】** お前こそ用心せよ。

その時アポルオンは道一杯に立ちはだかつて言った、こんな事にかけては恐れを知らぬおれだ。死を覚悟しろ。地獄の洞穴に誓って、この先一歩も進ませないぞ。ここでお前の命をなきものにしてくれよう。そう言いながら彼は基督者の胸を目標けて燃える槍を投げつけた。しかし基督者は手に盾を持っていたので、それで槍を受けとめて危険を防いだ。その時基督者は今こそ奮起すべき時だと剣を抜き放った。

アポルオンはすかさず彼に打ってかかって、雨あられとはげしい槍を投げつけた。基督者は力を尽してそれを避けたが、アポルオンは彼の頭と手と足に傷を負わせた。これには基督者もややたじたじとなった。そこでアポルオンはカー杯攻め続けた。基督者は再び勇気を奮いおこして、力の限り男らしく抵抗した。この激しい格闘は半日余りも続いて、ついに基督者はほとんど力も尽き果てた。お察しのように基督者は痛手のために次第に弱って行かねばならなかった。その時アポルオンはすきをうかがって基督者に詰めよって組みつき、彼をはげしく打ち倒した。同時に基督者の剣は飛んで手から離れた。するとアポルオンは言った、今こそお前はおれのものだ。そう言いながら、ほとんど死なんばかりに抑えつけたので、基督者は生きる望みも失いかけた。しかしアポルオンがこの善人とどめの一撃を加えようとしたとき、神のみ旨



アポルオンの敗走

によって、彼はすばやく手を伸ばして剣をつかみ、わが敵よ、私について喜ぶな。

**【ミカ 7:8】** たとい私か倒れるとも起きあがる、と言いながら、ずぶりとひと刺つき通すと、アポルオンは致命傷を受けた者のようにたじろいだ。基督者はこれを見るなり再び彼に詰めよって、しかし、私たちが愛して下さったかたによって、私たちは、これらすべての事において勝ち得て余りがある、**【ロマ 8:37】** と言った。それと同時にアポルオンは龍の翼を拡げて逃げ去ったので、**【ヤコ 4:7】** 基督者は暫くはもう彼を見なかった。

この格闘においてアポルオンが争闘の終始いかにわめき、恐ろしくほえたか一彼

は火龍のような口をきいた—他方基督者の胸からいかなるため息とうめき声が発せられたか、それは私のように見たり聞いたりしなければ、だれも想像することはできない。彼がその両刃の剣でアポロンを傷つけたことに気づくまでは終始一度も愉快的顔つきをするのを見たことはなかった。この時はさすがに微笑して上を仰いだ、それは今まで見たこともないもの凄い光景であった。

かくて戦いが終わったとき、基督者は言った、私をししの口から救い出し、またアポロンと戦うのを助けて下さったお方にここで感謝を捧げます。そして次のように言いながら彼は感謝した。

この悪魔の首領なる大ベルゼブルは  
わたしを滅ぼそうともくろみ、  
武装のアポロンを送った。  
彼は地獄を思わせる激怒ではげしく襲った。  
しかし天使ミカエルがわたしを助け、  
たちまちわたしは剣で彼を走らせた。  
されば絶えざる感謝を彼にささげ、  
聖なるみ名を常に感謝し、あがめまつる。

その時命の木の葉を幾枚か持った手が彼の方に来たので、基督者はこれを取って、戦いで受けた傷にあてると、直ちに癒された。彼はまたそこに腰をおろして、少し前に与えられたパンを食べ、瓶のぶどう酒を飲んだ。かくて元気を回復すると、抜き身を引き上げたまま旅仕度をした。彼は言った、だれかほかの敵が身近にいるかもしれないぞ。しかしこの谷間をまったく通り抜ける間、アポロンが再び立ち向かうことはなかった。

さて、この谷間のはずれにもう一つ死の陰の谷というのがあって、基督者はどうしてもそこを通らなくてはならなかった。天の都への道はこの真中を通っていたからである。さてこの谷は非常に淋しい所であった。預言者エレミヤはこう述べている、「荒野なる、穴の多い荒れた地、かわいた死の陰の地、(基督者以外は)人の通らない、人の住まわぬ地」。**【エレ 2:6】**

さて、ここで基督者はアポロンとの戦いの時よりもっと苦しい目にあった。その次第はこれから後のことでお分かりになることであろう。

それから私が夢で見ていると、基督者が死の陰の谷の境に着いたとき、二人の人が急いで引き返そうとしているのが見えた。それは良い国のことを悪く言いふらした者の子孫であった。**【民 13:30-33】** 基督者は彼らに次のように話した。

基督者 あなた方はどこへ行かれるところですか。

両人は言った、あと戻り、あと戻り。あなたにもそうさせたいんですがね、命や平安を大事と思われるならのことですが。

【ジョン・バニヤン 天路歷程 正篇 より】

※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい